

情報公開用文書（茅ヶ崎市立病院で実施する医学系研究）

西暦 2023年2月24日作成

<p>■研究課題名</p>	<p>EST後出血に対するERCPカテーテルを用いた局注止血療法</p>
<p>■研究の対象</p>	<p>ERCP(内視鏡的逆行性胆管造影法)にて処置を行う際に、EST(内視鏡的乳頭切開術)を施行した171例中、EST後出血に対しERCPカテーテルを用いた局注止血療法を施行した方</p>
<p>■研究目的・方法</p>	<p>ERCP(内視鏡的逆行性胆管造影法)にて処置を行う際に、EST(内視鏡的乳頭切開術)を施行する。ESTの偶発症として1-10%に出血を認め、術中および術後の管理に難渋することがある。これまでEST後出血に対しては、クリップ止血、高周波電気凝固、局注針による薬剤注入、バルーンカテーテルや金属ステントによる圧迫止血が報告されている。 我々はEST後出血に対し、ERCPカテーテルを用いた局注療法(ECLI)による止血を実施している。本治療の有用性を後方視的に検討した。 2021年3月から2022年10月までに当院で施行したEST171件中、出血に対しECLIを施行した8件について動画を用いて後方視的に検討した。ECLI手技は出血部近傍の切開面にERCPカテーテルを差し込み、生理食塩水あるいはエピネフリン加生食(0.1%エピネフリン1ml+生食20ml)を、2-5mlずつ粘膜下に注入するのみである。注入により粘膜下膨隆が形成され、止血が得られれば終了し、処置中であれば目的処置を継続する。検討項目として、ECLI手技成功率、止血成功率、止血までの時間、偶発症、後出血について検討した。</p>
<p>■研究期間</p>	<p>2021年3月から2022年10月</p>
<p>■研究に用いる 試料・情報の種類</p>	<p>既に行った治療行為のため、診療記録を用いる</p>
<p>■試料・情報の 取得と保管方法</p>	<p>既存の診療記録を用いて、院内の電子カルテ内のファイルサーバにてデータを収集し、解析も行う</p>
<p>■外部への 試料・情報の提供</p>	<p>なし</p>
<p>■研究組織</p>	<p>茅ヶ崎市立病院 消化器内科</p>

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで、電話またはFAXにてお申し出下さい。  
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1  
茅ヶ崎市立病院 消化器内科 (研究責任者) 佐藤 高光  
電話番号:0467-52-1111(代表)